

令和元年度 学校評価書

東温市立川上小学校

令和2年2月19日

1 学校の教育目標

「健康で明るく」ともに生きる川上っ子の育成

2 経営の基本方針

○協育 みんなが協力して育てる学校 ○共育 互いに教え、教えられ共に育つ学校 ○響育 互いの心が響き合う学校 ○郷育 故郷に生まれ、故郷を想い、故郷に還す学校
 (目指す児童の姿) ㊦ わすあいさつ ㊧ かち合う心 ㊨ んがえ、表現する力 ㊩ んなで踏ん張る底力

評価領域	評価項目	評価の観点	評価			考察及び改善方策	学校関係者評価委員の評価
			教職員	児童	保護者		
生徒指導	いじめ・不登校等への対応	教育相談の充実といじめ・不登校等の早期発見・早期解決に努め、子どもがど真ん中で明日も行きたくなる温もりのある学校づくりに努めた。	3.5 (3.6)	3.6 (3.7)	3.2 (3.3)	【考察】 ○ 学期に1回「学校生活についての調査」や毎月「学校生活についての月調査」を行い、アンケート調査を基にした教育相談を実施するなどして、いじめの未然防止・早期発見・早期解決に努めている。また、管理職の指導の下、事案に応じて家庭訪問や電話連絡等による保護者との連携を図りながら、複数の教職員で組織的に迅速な対応に努めている。 ○ 不登校傾向にある児童については、ケース会議を開いて複数の教職員で相談したり、保護者や関係機関との連携を図ったりしながら、個に応じた支援をしている。 【改善方策】 ○ 児童がより相談しやすくなるよう、休み時間や昼休みなどの子どもと向き合う時間を大切にしていく。	○ いじめ防止基本方針の下、早期発見・早期解決に取り組んでいる様子がよく分かる。 ○ いじめ、不登校児童への対応がよくできている。 ○ 問題が発生した際に、迅速に保護者と連絡を取ったり、児童と話し合いをしたりして、学校全体でサポートしていただいていると思う。 ○ 学校教育評価で、1回目と2回目とで生徒指導体制の項目が、児童と教職員との差が大きくなっているのが気になる。
	基本的な生活習慣の定着	家庭や地域社会と協力し、基本的な生活習慣の定着に努めた。	3.2 (3.3)	3.4 (3.4)	3.1 (3.1)		
	生徒指導体制の整備	家庭や地域との連携を密にするとともに、家庭や地域から得た情報を教職員間で共有した。	3.6 (3.8)	3.3 (3.3)	3.4 (3.5)		
確かな学力を育てる教育	基礎・基本の定着	「みんなの学習クラブ」や「愛媛学びの森学習支援サイト」を活用するとともに、朝学習の時間（「漢字の広場」、「計算の広場」、「朝の読書」）を利用して、学習習慣の確立や基礎的、基本的内容の定着を図った。	3.3 (3.5)	3.4 (3.5)	3.3 (3.4)	【考察】 ○ 「学力向上・授業力向上のためのチェックリスト」（上半期、下半期）や「家庭学習の手引き」を見直し、授業や家庭学習が充実するよう、具体的な取り組み方を示すことに努めた。 ○ 基礎的、基本的内容の確実な定着を目指し、朝学習の時間の内容を再検討した。また、応用的内容を含むプリント教材（東温市から提供していただいている「みんなの学習クラブ」や「愛媛学びの森学習支援サイト」等）を積極的に活用している。 【改善方策】 ○ 「家庭学習がんばりカード」を11月と1月に配付し、意欲付けを図った。今後も、学年だよりや校報等で啓発し、保護者の協力を得るようにする。 ○ 授業に「学び合いタイム」（小集団学習）を意図的、計画的に位置付けている。今後も継続して、集団の前で話す経験を積み重ねられるよう発表する場面を工夫したり、児童主体の考える授業となるよう授業展開を工夫したりしていく。	○ 家庭学習の手引きは、児童、保護者にとっても具体策が書かれていて理解しやすいと思う。 ○ 児童主体の学習になるように学校が工夫していることが分かる。 ○ 自らの考えを伝え合う時間の取組が効果を上げている。 ○ 家庭学習を習慣化させるために、その必要性について学校から啓発するとともに、家庭での協力を得られるよう具体的に提案する。 ○ 自分の思いや考えを出しにくい児童も、何かしら伝えられる工夫をお願いしたい。
	家庭学習の充実	家庭学習の状況を点検し、個の学習に生かすなど、家庭学習が充実するように努めた。	3.2 (3.3)	3.3 (3.3)	2.9 (2.9)		
	言語活動の充実	自分の思いや考えを伝え合う「学び合いタイム」や学級活動等で発表する場面を工夫し、考え、表現する力の育成に努めた。	3.1 (3.3)	3.4 (3.4)			
	思考力の育成	学習課題を明確にし、考えさせる授業展開を行うことにより、学習意欲の向上を図り、確かな理解と思考力の育成を図った。	3.2 (3.1)	3.5 (3.4)			
豊かな心、健やかな体を育てる教育	道徳教育の充実	道徳科を要とし、全教育活動を通じて、仲間とわかち合う心を育てながら、共に励まし合い、みんなで踏ん張る底力を養った。	3.2 (3.6)	3.6 (3.6)	3.3 (3.4)	【考察】 ○ 「フレンド集会」において、いじめ問題を取り上げて劇化し、異年齢集団で話し合う活動を設けることで、互いを大切にしようとする気持ちを高め、温かい人間関係を築くことができるようになった。 ○ 時期によって、水泳、陸上、マラソン、縄跳びといった運動の種類に変化をもたせたり、えひめ子どもスポーツITスタジアム登録によって他校とも競い合ったりしながら、体力や技能の向上と運動の日常化に努めた。 【改善方策】 ○ 人権・同和教育に視点を当てた参観日や性教育に視点を当てた参観日を実施し、心や体、命について考える時間を設定している。今後も、道徳科の学習との関連を図りながら、豊かな心の育成に努める。	○ いきいき川上発表会の中で、みんなで力を合わせて発表している様子から、日々の学習の積み重ねを感じる。 ○ 異年齢での活動は、児童の豊かな心を育てているのがよく分かる。 ○ 家庭では体を動かす体験が少なくなっていると思う。学校生活の中で思い切り体を動かすことを大切にしてほしい。 ○ 道徳科の授業や生活を通して、児童が多くの考える機会をもつことで人権感覚は育まれていくものだと思う。
	仲間づくり・集団づくり	異年齢集団活動や児童主体の活動を通して、ともに生きる川上っ子の育成に努めた。	3.3 (3.3)	3.7 (3.7)	3.5 (3.5)		
	健康づくり	自らの健康に関心をもたせ、保健指導を通して自己管理能力の育成に努めるなど、健康で明るい児童を育成した。	3.2 (3.4)	3.5 (3.5)	3.3 (3.3)		
	体力づくり	えひめ子どもスポーツITスタジアムへの挑戦など、体育的活動の充実を図り、健康の保持と体力・運動能力の向上を図った。	3.2 (3.3)	3.6 (3.7)	3.5 (3.6)		
	食育教育の充実	食に関する指導を通して、食についての関心をもたせ、望ましい食習慣の形成や食生活の改善に努めた。	3.2 (3.2)	3.4 (3.4)	3.0 (3.0)		
特別支援教育	特別支援教育の充実	誰もが安心して参加できる「分かる・できる」授業づくりに取り組んだ。	3.2 (3.3)	3.7 (3.6)	3.0 (3.1)	【考察】 ○ 「分かる授業」を目指した授業改善、個々の学習状況に合った指導方法の改善に取り組んでいる。今後も、児童の学習習慣の確立や基礎的、基本的内容の定着を図るとともに、一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援をしていく。	○ 行事などで見ると、児童本人の頑張りはもちろんだが、学校側の配慮や工夫も感じられる。一人一人を大切にしてもらっている。 ○ 一人一人に応じた声かけや支援が行われている。
安全・安心な教育環境の整備	登下校の安全確保	家庭や地域・関係諸機関と連携して児童をまもり育て、登下校の安全確保に努めた。	3.5 (3.6)	3.8 (3.8)	3.5 (3.6)	【考察】 ○ 火災、地震の避難訓練や児童引き渡し訓練、緊急地震速報による仮避難の訓練などを継続して実施し、防災指導の充実を努めた。 ○ 毎朝の見守り活動、かわか見っこの日の登下校の指導、「まもるくんの家」の確認等を保護者や地域の方々の協力を得ながら行い、安全確保に努めた。また、青色防犯パトロール、不審者対応の避難訓練を実施し、事件・事故等の防止に努めた。 【改善方策】 ○ ICTサポータと連携しながら、ICT機器を活用した指導の充実を努めるとともに、情報モラル等の更なる育成に取り組んでいく。	○ 教職員による毎日の見守り活動を有り難く思う。児童はとても安心して思う。 ○ 登下校の危険箇所などの早期発見ができていのがすばらしい。 ○ 防災教育にしっかりと取り組んでいると思う。様々なケースについても学んでほしい。 ○ ICT機器の扱いに関しては、ルールの取り決めなども必要と思うが、時代に沿い、慎重に考えていく必要がある。
	防災教育の充実	教科等における防災学習や行事等で防災指導を適切に行い、災害に適切に対応する能力の基礎を培った。	3.4 (3.5)	3.8 (3.9)	3.5 (3.5)		
	情報機器の適切な利用	ICT機器を積極的に活用し、分かりやすい授業づくりに努めるとともに、情報機器の適切な利用について指導した。	3.3 (3.1)	3.5 (3.5)	3.4 (3.4)		
家庭・地域との連携	開かれた学校づくり	学校や学年、学級の教育活動に対して、保護者や地域住民、外部人材等の参画及び協力を得た。	3.2 (3.2)	3.5 (3.5)	3.2 (3.3)	【考察】 ○ 校報やホームページにおいて、学校の教育活動の様子などをタイムリーに公開することに努めている。特に、ホームページは毎日更新することで、児童の日々のいきいきとした活動を伝えることができたと思う。 【改善方策】 ○ 教育活動に、学校運営協議会委員や地域の方々の協力が得られている。また、「一人一役活動」を中心に、保護者の方がPTA活動に参加することもできている。今後も、周知方法を工夫したり、日程や内容を検討したりしながら、連携強化を図っていきたい。	○ ホームページや学校だよりにより、学校での子どもたちの様子が紹介されており、連携ができていいる。 ○ 地域の方の授業への参加、家庭教育学級の定期的な開催など、連携を図っていただいていると思う。 ○ PTA支部活動により、地域との連携もよくとれていると思う。 ○ 今後は、学校・家庭・地域の連携が、より活発になることを期待している。
	PTA活動への協力	各種PTA活動に参加したり、協力したりしている。	3.2 (3.4)		3.4 (3.4)		
	情報の共有化	積極的な情報公開・情報の共有化に努め、地域・家庭・学校が息の合った教育活動を推進した。	3.4 (3.4)		3.5 (3.6)		
特色ある学校づくり	青少年赤十字活動	わくわく班活動やJRC活動への主体的参加を通して、奉仕や協働の精神を培った。	3.4 (3.4)	3.3 (3.4)	3.0 (3.1)	【考察】 ○ 川小金管バンドは、年間を通して練習に取り組み、学校行事や東温市音楽会や地域でのイベント等で演奏したり、小中学校合同の演奏会を地域で開いたりするなど、練習の成果を発揮する場を計画的に設けている。 ○ 新たに箏練習に取り組み、いきいき川上発表会において演奏した。 【改善方策】 ○ 運営委員会を中心に行っている挨拶運動、環境委員会の朝清掃や落ち葉キャンペーンなどの主体的な活動について、代表委員会等を通じて全校に紹介し、ボランティアの輪を広げていく。	○ 金管バンドは、様々な場所で演奏する機会をもち、堂々としたすばらしい姿は誇りに思う。 ○ 金管バンドの継続が大切だと思う。 ○ 子どもたちが、地域で大きな声で挨拶ができていいる。 ○ 青少年赤十字活動の意義を明確にするとともに、その成果を表彰や感想発表など、形にして知らせるのはどうか。
	挨拶運動	気持ちのよい挨拶を交わし合うなか、校内や地域で進んで挨拶ができる児童を育成した。	3.1 (3.3)	3.5 (3.5)	3.1 (3.2)		
施設・設備の充実	施設・設備の安全管理	安全点検の日常化を図り、安心・安全な教育の場づくりに努めた。	3.5 (3.5)	3.7 (3.7)	3.6 (3.7)	【考察】 ○ 施設、設備については、安全点検を毎月1回行うとともに、日々点検を行い、修理、修繕をしている。昨年度3月にはプールが完成し、今年度は空調設備設置、本館2階教室黒板改修、体育館天井電灯取替などを行っていただいた。 ○ 夏季休業中のPTA親子奉仕活動や運動会準備において、多くの保護者の方に校内整備をしていただくことができた。 ○ 外部人材の協力を得ながら土作りや育苗、植え付けをするとともに、灌水を計画的に行い、美しい潤いのある学校づくりに努めた。	○ 三者とも評価が高く、学校を訪問しても気持ちのよい環境である。 ○ 整えられた環境で教育活動が行われている。 ○ プールが完成して充実している。エアコンも完備されて万全である。
	校内環境の整備	季節感のある校内掲示や栽培活動への取組を行い、花と緑の美しい、潤いのある学校づくりに努めた。	3.4 (3.4)	3.4 (3.4)	3.3 (3.4)		